

第十一回 岡田麗史の会

狂言 仏師

シテ すっぱ 野村万蔵
アド 田舎の者 河野佑紀

能 松風

見留

シテ 松風 岡田麗史
ツレ 村雨 浅見慈一
ワキ 旅僧 殿田謙吉
アイ 浦人 能村晶人
笛 一噌隆之
小鼓 幸清次郎
大鼓 國川純
地謡 安藤貴康 鶴澤久
長山桂三 浅井文義
馬野正基 西村高夫
清水寛二
後見 観世鏡之丞

(終演予定六時二十分頃)

仏師 (ぶっし)

持仏堂を建立した田舎の者がそこに安置する仏像を求めて都に上る。すっぱ(詐欺師)が仏師だと偽って田舎の者に近づき明日の今時分に等身大の仏像を渡そうと約束する。すっぱが自ら仏像になりすまし待つところに田舎の者がやって来るが仏像の印相が気に入らないと仏師を呼ぶ。すっぱが印相を変えて再び立つとまた気に入らなず仏師を呼ぶ。すっぱは仏師になり仏像になったりを繰り返すうちに…。理屈抜きに見ていて楽しい狂言。

松風 (まつかぜ)

秋の夕暮須磨の浦を訪れた旅の僧が由ありげな松を見て浦人にいわれを尋ねると、それは昔中納言在原行平がこの地に流された時、三年の間身近に召されて寵愛を受けた松風・村雨姉妹の旧跡であると聞かされる。僧が近くの塩焼き小屋に立ち寄ると折から月光のもと二人の女が海人の身を嘆きつつ潮汲車を引いて帰ってくる。塩屋の中で僧が旧跡を吊ったことを述べ行平の和歌を口ずさむと、二人は涙にくれ自ら松風・村雨の幽霊と明かし行平との恋物語を語る。やがて行平の形見を取り出し懐かしんだ松風は、それを身につけ狂乱の心となり松を行平と見て寄り添い恋慕の舞を舞い僧に重ねて回向を頼み、やがて立ち去って行くかと思えるうちに夜は明けて、跡には松を吹き抜ける風の音のみが残るばかりだった。観阿弥の原作を世阿弥が改作した秋の名曲。



八世観世鏡之丞・撮影三宅晟介(表面も)

入場券

前売券 5000円
一般券 6000円
学生券 3000円

500円追加で最後列のベンチシートをご予約頂けます。
(限定20席、正面・脇正面とも同額)

会場

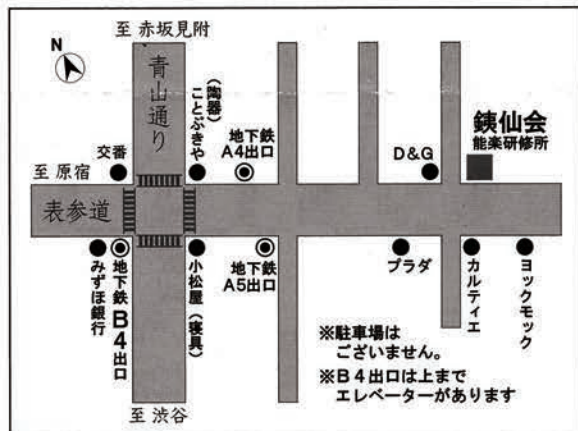
鎮仙会能楽研修研究所
<http://www.tessen.org/>
〒107-0062
東京都港区南青山 4-21-29

お申し込み・お問合せ

鎮仙会内 岡田麗史の会
TEL 03-3401-2285
(平日 10時~17時)
FAX 03-3401-2313
E-mail info@tessen.org

会場までの交通

営団地下鉄表参道駅下車
(銀座線・千代田線・半蔵門線)
A4出口より徒歩3分



第十二回 岡田麗史の会

2016年6月26日(日)
午後1時開演 於 宝生能楽堂

能「三輪 白式神神楽」・ 半能「石橋 大獅子」

その他狂言・一調・独吟・連吟・仕舞 多数
入場料 SS12,000円 S10,000円, A8,000円, B6,000円, C4,000円, 学生3,000円
2015年9月1日よりお申込み受付開始(鎮仙会内・岡田麗史の会)